

寝取られ  
美人妻

山本善文





# 第1話





初めはあんなに嫌がってたのによオ

今じゃ腰まで使ってやがる

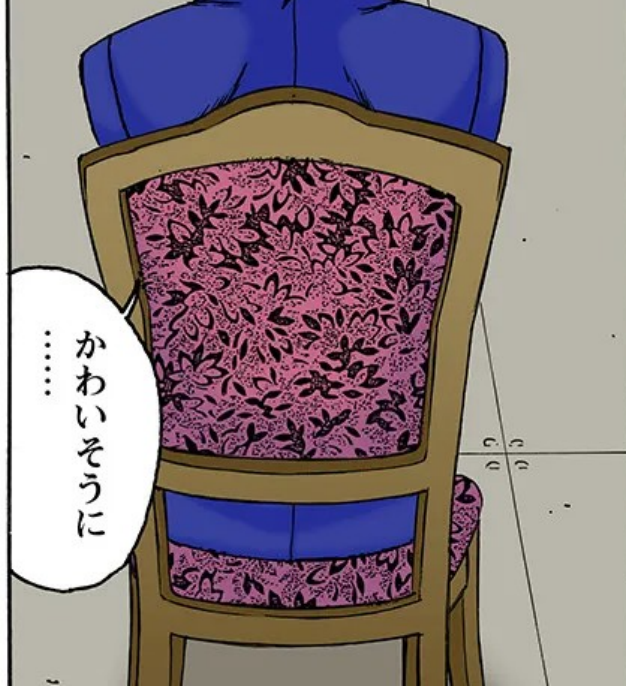


あくあ あんなにされてしまつて



26才の人妻だからな

色々覚えが早くていいぜ

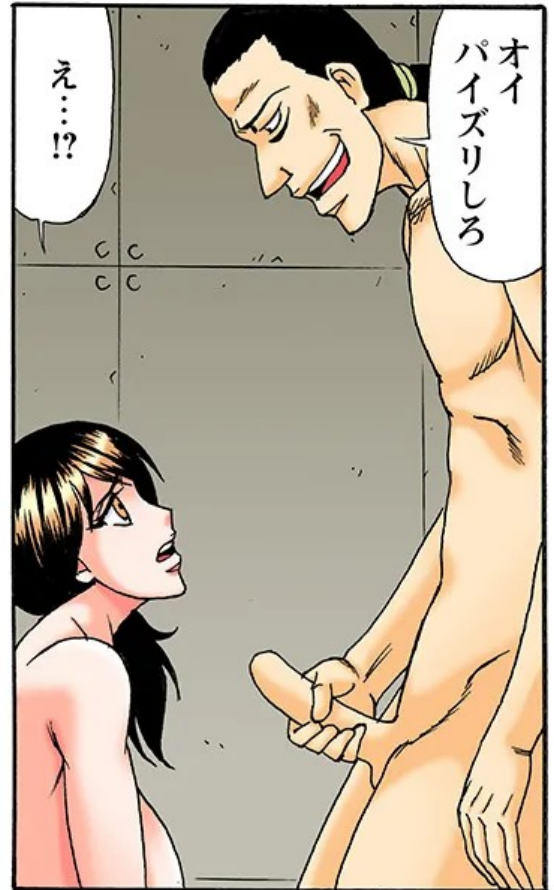


…… 可愛いそうに





こ……  
こうですか



オイ  
パイズリしろ

え…!!

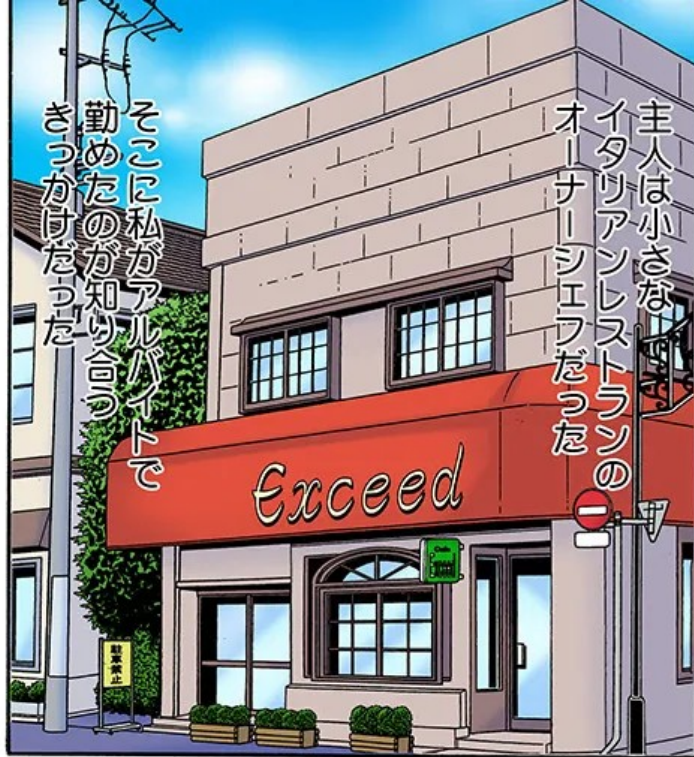


オラ  
こつちも忘れ  
てんじゃねーぞ



おおデケー乳だと  
気持ちいいぜ

うう…



それは私の夫 祐樹が  
あの悪魔のような男  
真田悠真とした約束から  
始まった事だった…



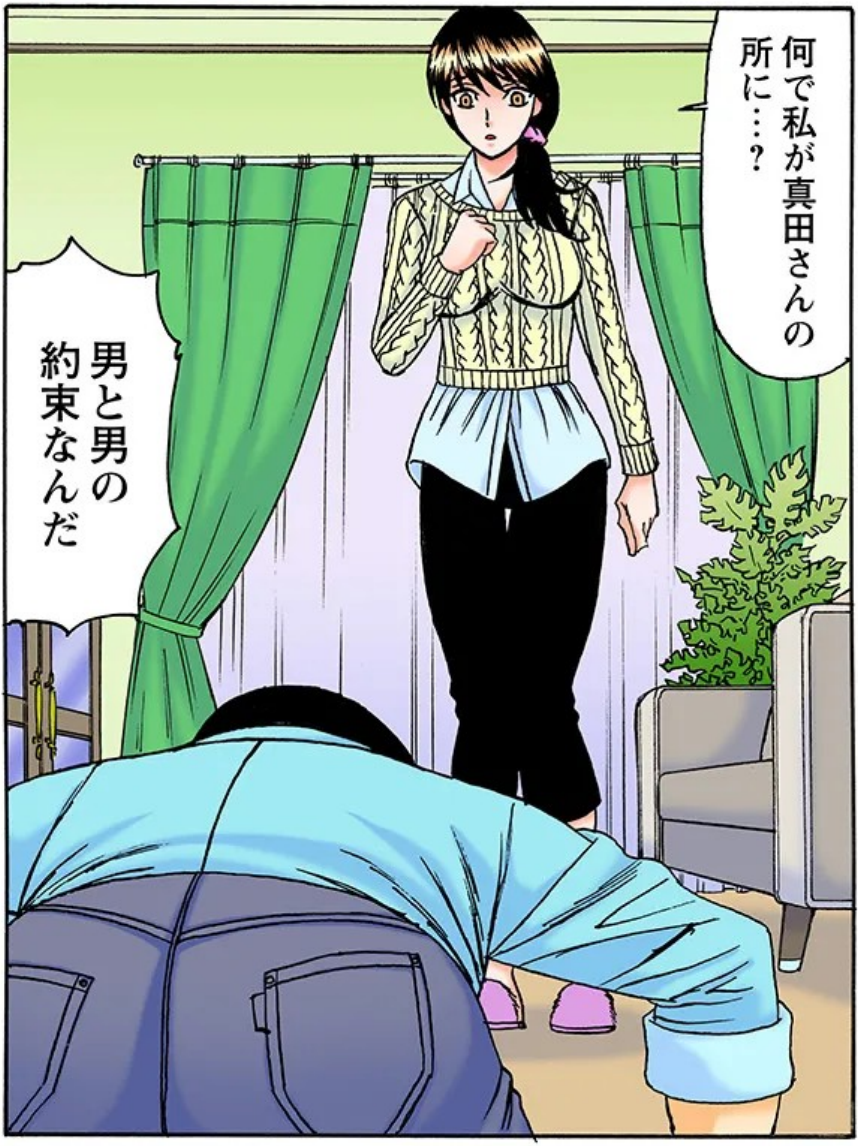
そんなある日

突然夫が…



頼む！ 結衣  
一生に一度の頼みだ

5日間だけ  
真田さんの所に行  
行ってくれないか



何で私が真田さんの所に…？

男と男の  
約束なんだ



約束？

バカバカしい話だった  
その真田に3千万円の  
融資を受けるかわりに  
私を5日間 家にお手伝い  
として呼びたいというのだ



私を見る目が  
キモチ悪いいつも  
にこやかなくせだ

しかし私は  
真田という男を  
好きにはなれなかった



真田という男は  
店の常連客で  
主人とは仲が良かった



もっと店を大きく  
した方がいいとい  
い説得されたい

真田に今の不景気を  
考えると駅前などは  
出店して



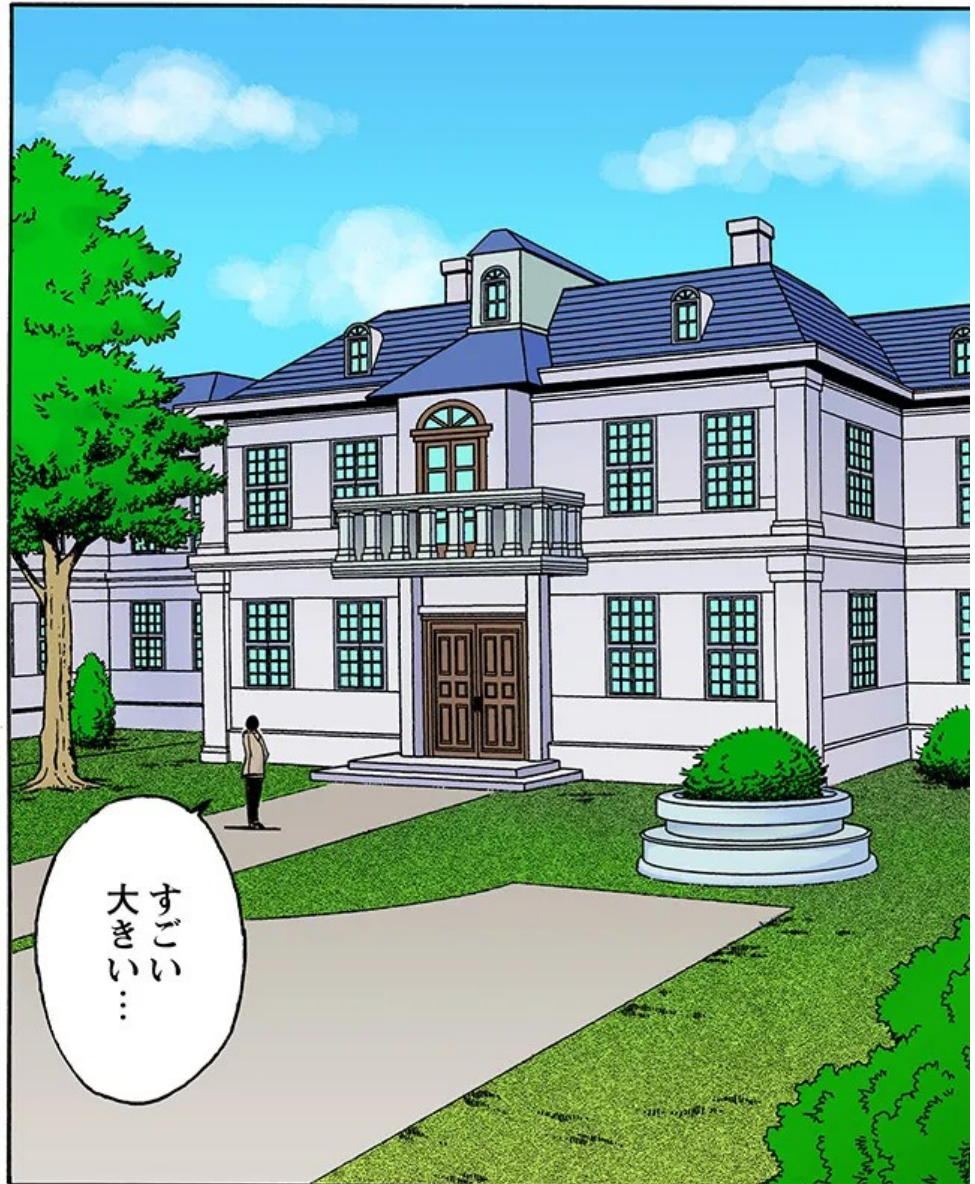
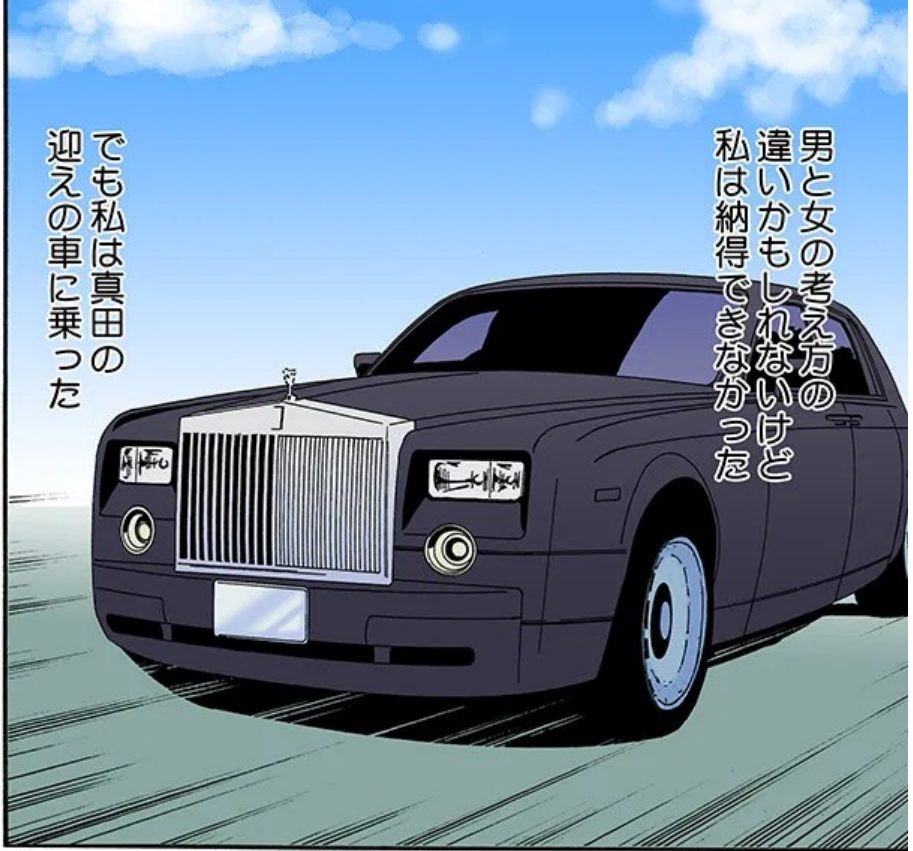
夫は将来の家族の  
ためだときかなかつた

私は今のままで  
十分だと訴えたが



目は笑って  
いなかった

ドス黒い何かを  
感じていた





がんばります

この男目が  
笑ってない  
気持ち悪い...



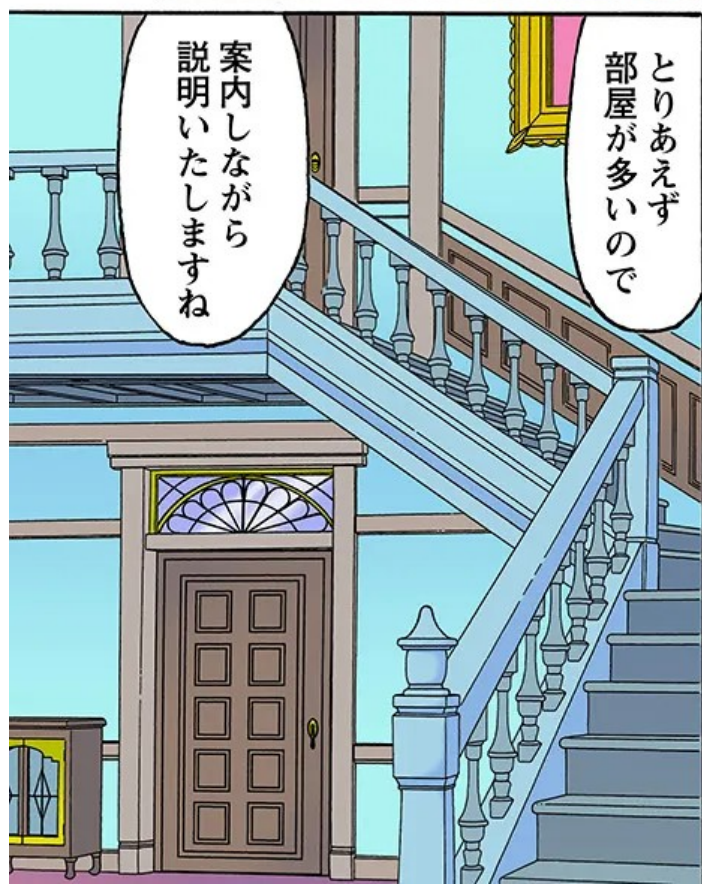
いや奥さんは  
お客様ですから

家ではゆっくり  
して行って下さい



大きな  
お屋敷ですね

祖父の代から  
のモノでして



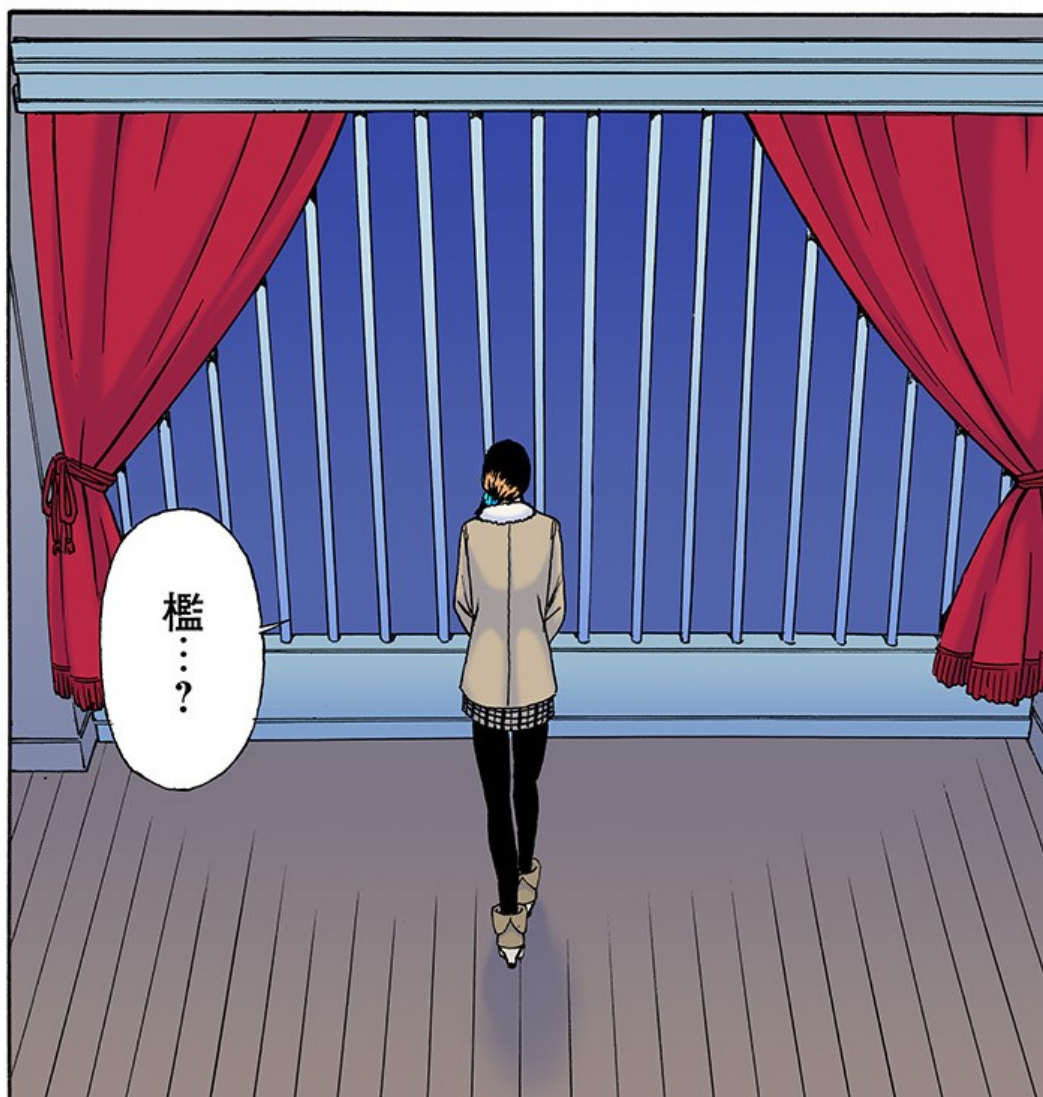
とりあえず  
部屋が多いので

案内しながら  
説明いたしますね



いや〜  
うれしいですね

5日間だけとは  
いえ家政婦として  
きていただけなんて







どうです  
いい肉奴隷に  
仕上っているでしょ

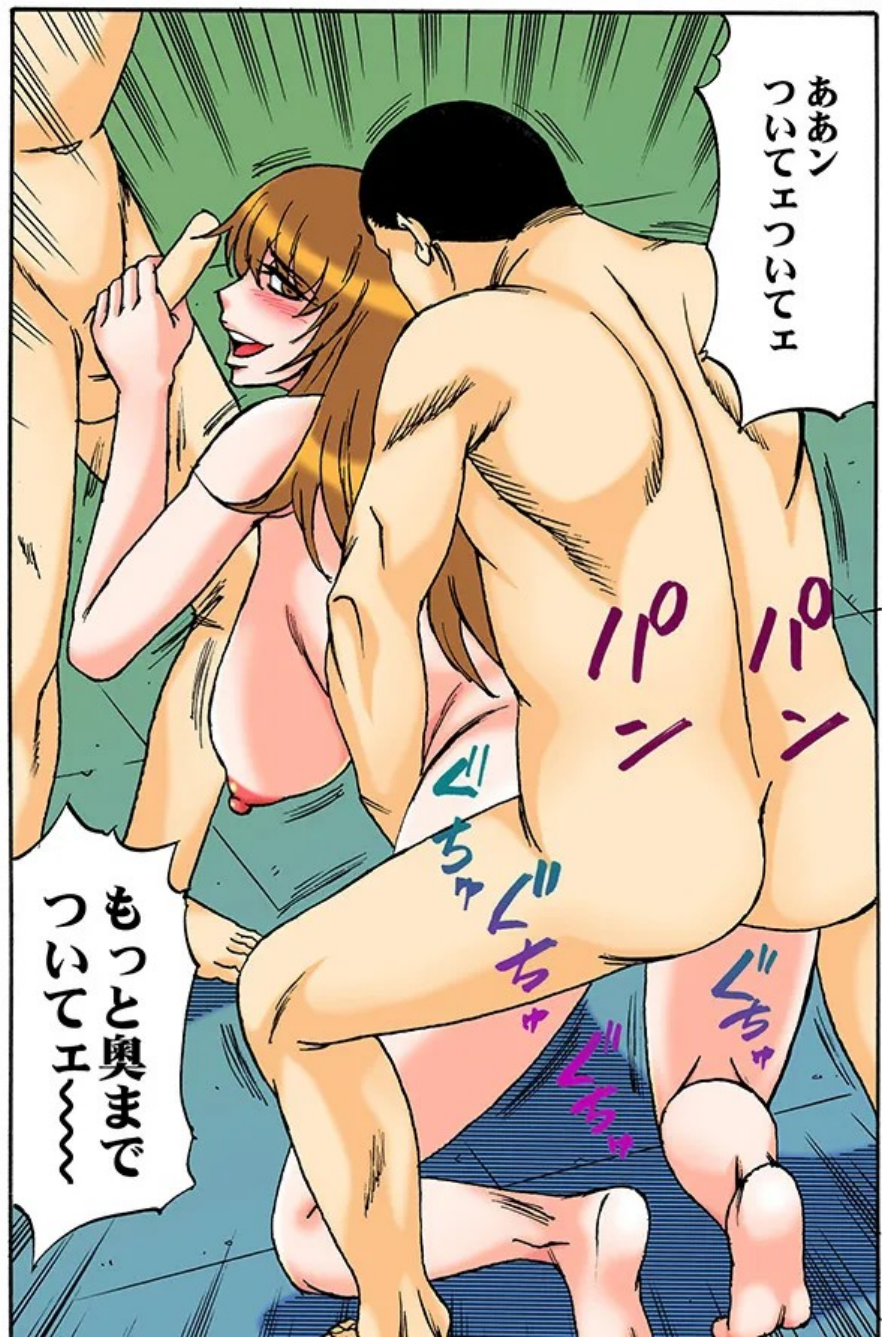


ああ…おいしい  
おいしいあア

もっと私に精液を  
かけて下さいイ



あまりにも現実離れ  
した光景に頭の中が  
まっ白になった  
でも心の奥で  
『逃げなければ』と警告が  
鳴っていた  
そして私は……

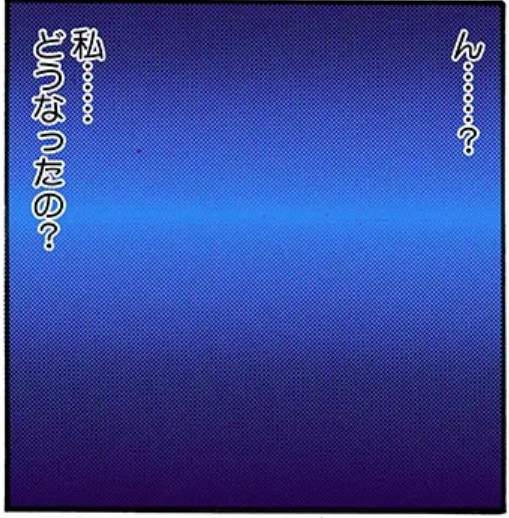


もっと奥まで  
ついてエ〜





え…!?



私……  
どうなったの??

ん……?



眠ってた……  
体がみよーにカサリイ  
それに体中が  
ヌルヌルして  
生暖かい……?

しゅっ  
しゅっ  
しゅっ



はっ



か…体が動かない  
どうして？

あぐう

イヤアア



へっへっへっ  
気が付いたか

え…何コレ  
イヤッ…



ある薬を注射  
しましたから  
当分の自由は  
ききませんよ

体が動か  
ないでしょ

!?



ヤアアアア  
イヤアアア

れろろ

ヒッヒッヒッ

れろろ



あなたは  
3千万円で  
私に



真田



肉奴隷として  
売られたんだよ



この卑怯者  
必ず警察に  
訴えてやる

私にこんな事  
をして主人が  
知ったら



まだわかって  
ないようですね

れろ〜

ヒッヒッヒッ

そ…そんなウソよ  
主人がそんな事  
する訳がないわ

それは無理だ

主人に連絡を  
させて

あうっ

出グーン

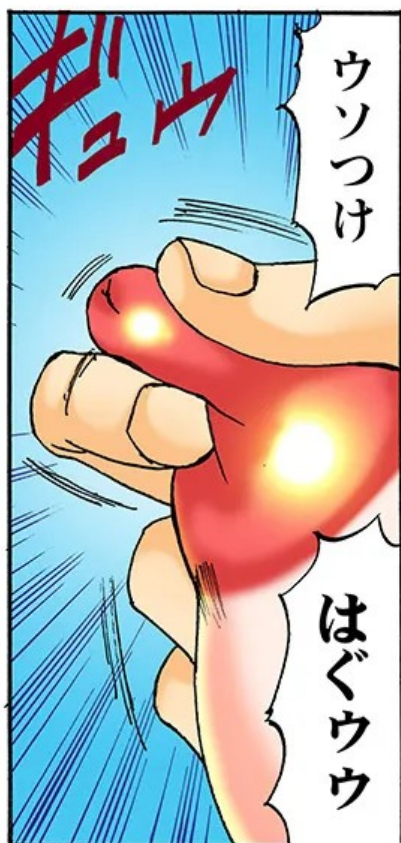
イヤ  
さわらないで  
イヤアアア

いいオツパイ  
だぜ

ダッ  
ダッ

キユウ

そうやってお前を  
調教してやるよ  
最後には自分から  
ほしがるようにな





いい声だ

あんたのその声を  
ききたかったんだよ



もっと舐めて  
やるよ

舌…舌が私の  
中に…あうう

ああん  
やめてエエ



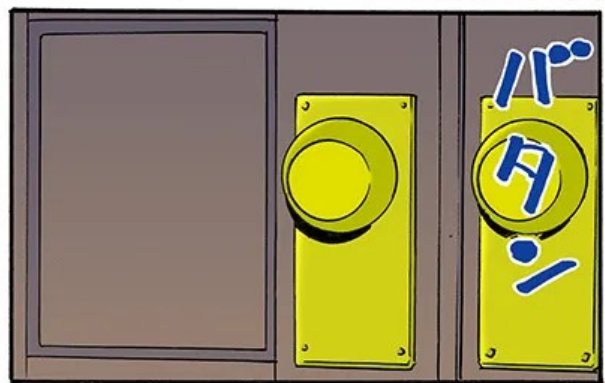
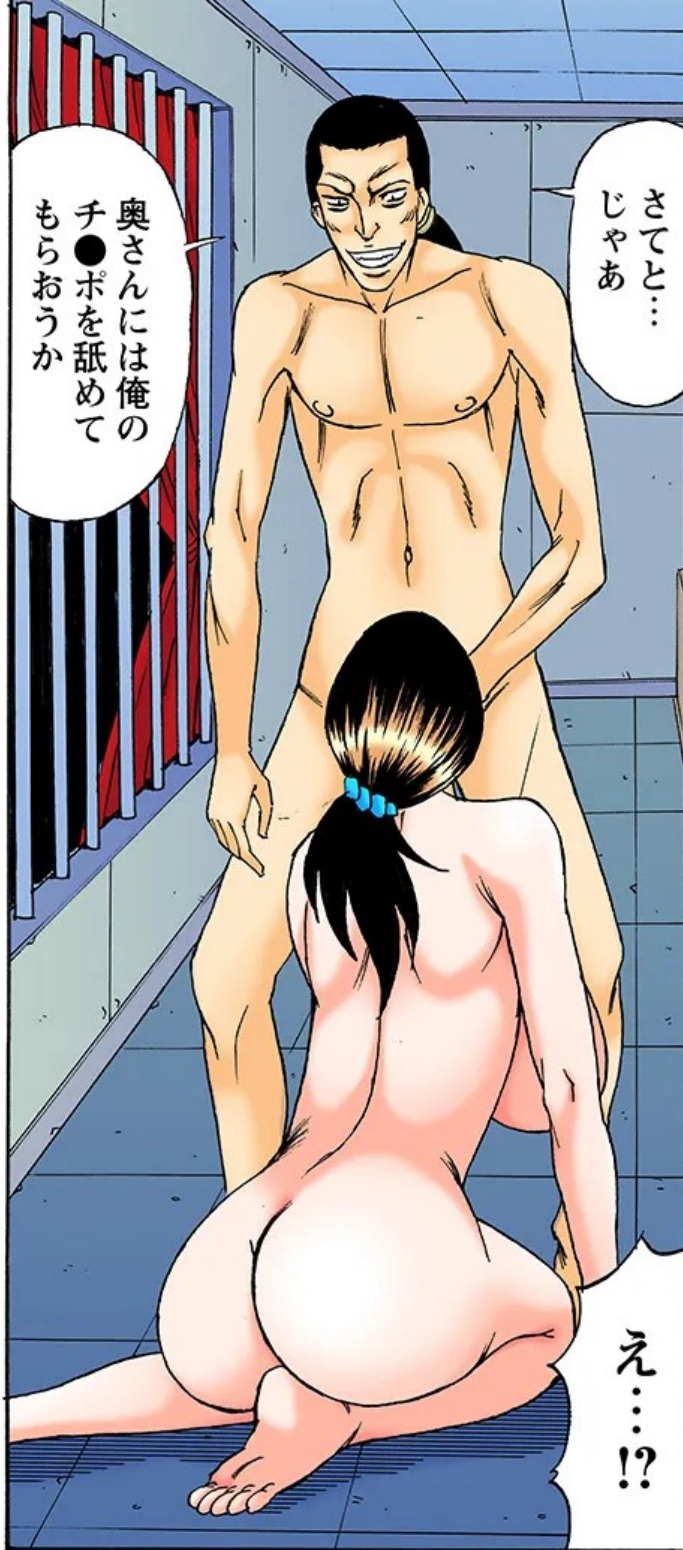
初めてあんたと  
会った時からだよ

あんなの事が  
忘れられなく  
なっただんだよ

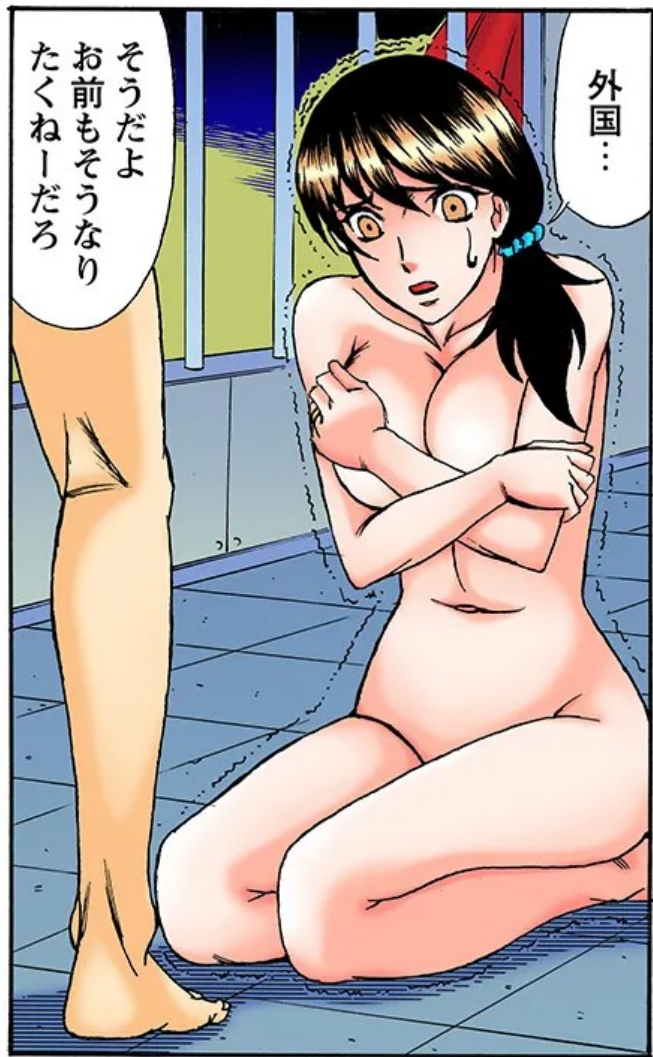


何で私に  
こんな酷い事を

ああん…んあつ











イヤ…無理よ

そんな大きいの  
私には無理よ  
やめて



おーおー  
入口が狭いなア

イヤ…太い  
キツイ…入らないわ



ひひひひひ

グイ  
グイ

キキ



うるせー

サッ

ひいっ



# 第2話



ああやめて  
もう入れないで

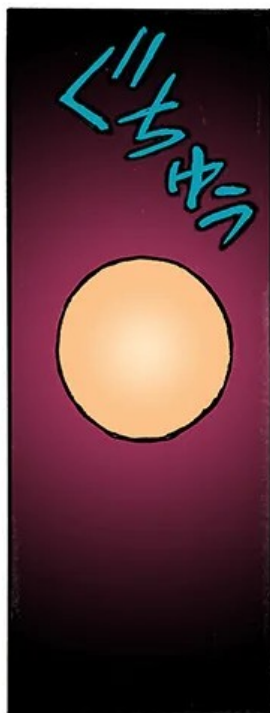
すごく大きくて  
キツイの



ああ…  
入口が

こわれちゃう

うづう…



ちゅん



何言ってるんだ  
始めたばかりだぞ





あうっ

ちゅっちゅ



奥さんのオッパイ  
舐めさせてくれよ

イヤ…さわらないで  
ケダモノ!!



ああん

たろき



何だよ奥さん  
乳首が感じるのかア  
プックリもり上がって  
きたぜエ

はあア...

タッ

タッ

タッ

こんな悍しい  
男達の愛撫に



負けないように  
思えば思うほど  
私の体は敏感に  
なっていく



ほれほれ乳首が  
気持ちいいんだろオ



負けない...  
気持ち良く  
なんか...ない

ハアハア



ウソツケ



心とは別に乳首は  
いたいほど押し出  
ていた



乳首弄られて  
イッたのかア

とんだ  
淫乱女だな



悔しい…  
こんな男の前で  
イクなんて…  
あぁ…どうして  
こんな事は…  
泣きたい

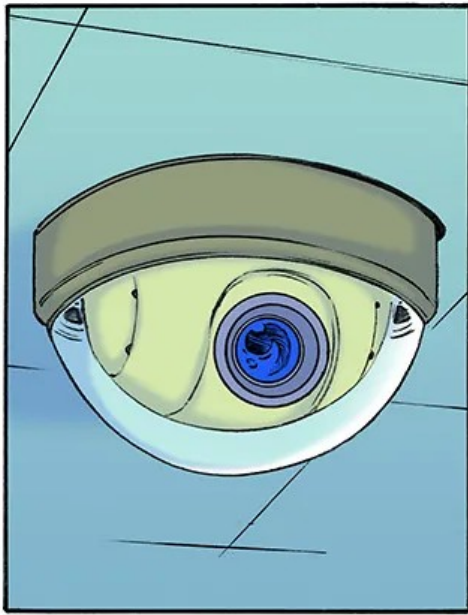


でも…  
泣かない  
泣いたらこいから  
負けた事になる!!



ひいイイイイイイ!!

イッ…イックウ~~~~!!



あうううん

いくら私の体を汚しても

私は絶対に  
奴隷なんか  
にならない!!



まだまだ  
心は折れないか

そうでなくては  
こっちの楽しみ  
がない



約束の5日間がたてば  
夫が迎えに来てくれる  
だからその日まで...

ああん

いい女だ

今までの中で  
トップクラスだ

亭主の祐樹のヤツ  
女房のこの姿を  
見たらどんな顔を  
するかな

俺は祖父から  
女の調教を  
叩き込まれた

祖父は戦後に貿易会社を  
起し一代で財を成した

しかし裏の顔は  
肉奴隷を育てる

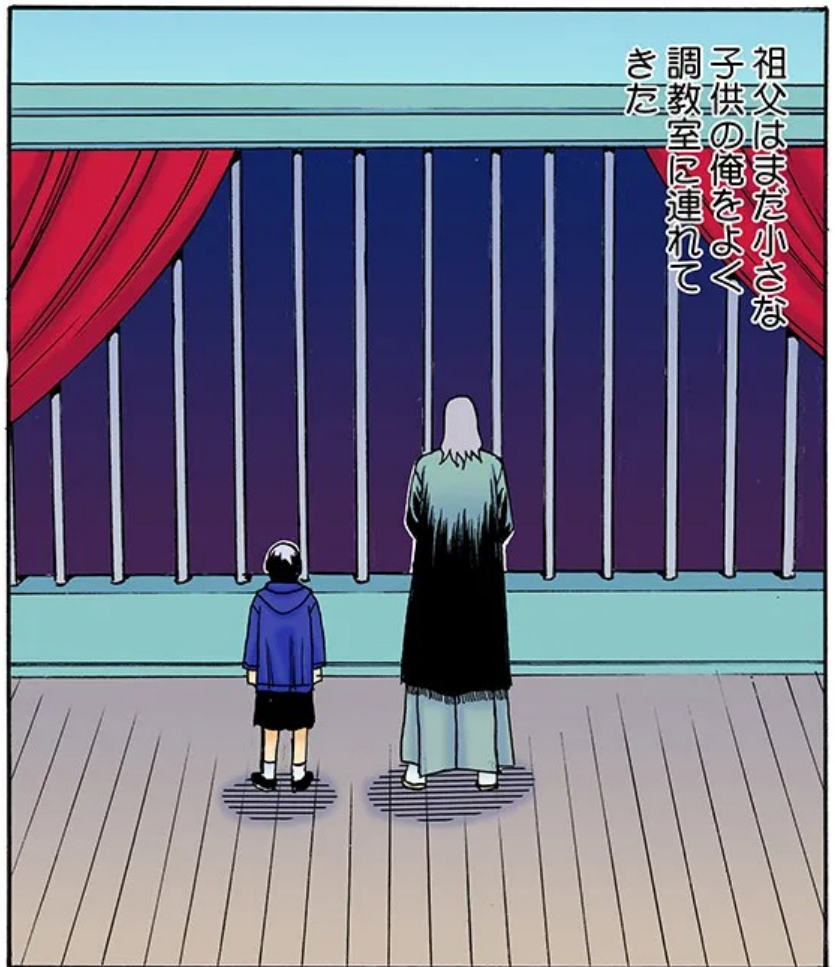
調教師という  
一面を持っていた



あぁっ

ここで行われている事は子供の俺にはまったく理解できなかった

はうりん



祖父はまだ小さな子供の俺をよく調教室に連れてきた



そんな俺に祖父は

いいかい 女の人をイジメているんじゃないんだよ

お前が大人になったらわかるがこれは女の人の為になっている事なんだよ



性に興味のない俺には大人の女性がいじめられているとしか思えず

ただひたすら恐怖を覚えただけだった

女の美しさ 愛しさ  
そして内に秘められた  
快楽を開放して  
あげる儀式なんだよ

やさしい目をして  
そう語っていた

しかしその時の言葉は  
小さかった俺にはどうも  
理解できなかった

ひびく

それから祖父は他界し  
会社は父へそして俺の  
代になった

金は腐る程あった  
何不自由ない生活だったが

いつも祖父の  
あの時の  
あの言葉が

引っかかって  
いた

それは真田の血  
なのだろうか

俺は調教師の道に  
進む事を決めた

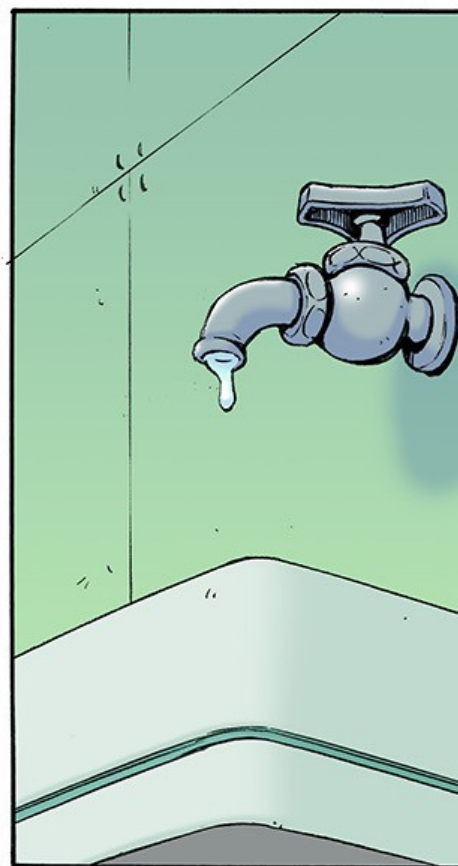
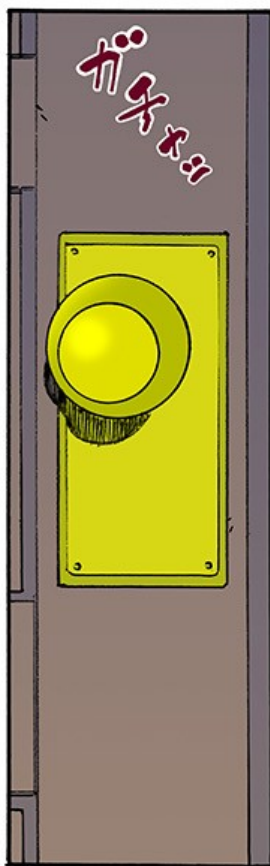




祖父の言葉の  
意味……



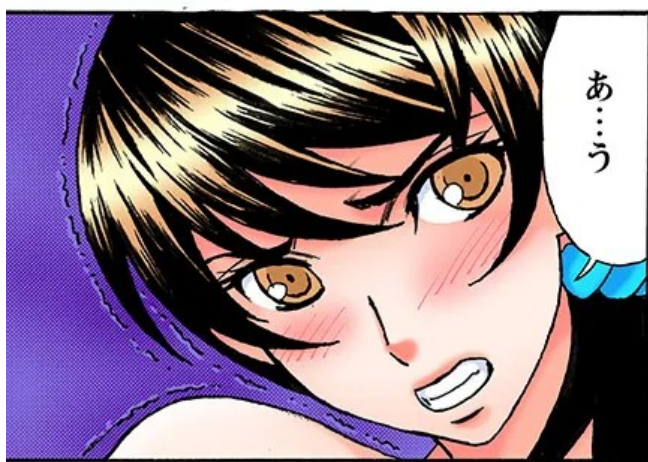
今なら  
理解できる





しかし  
まだ十分じゃない

こんなになって  
かわいそうに



あ……う

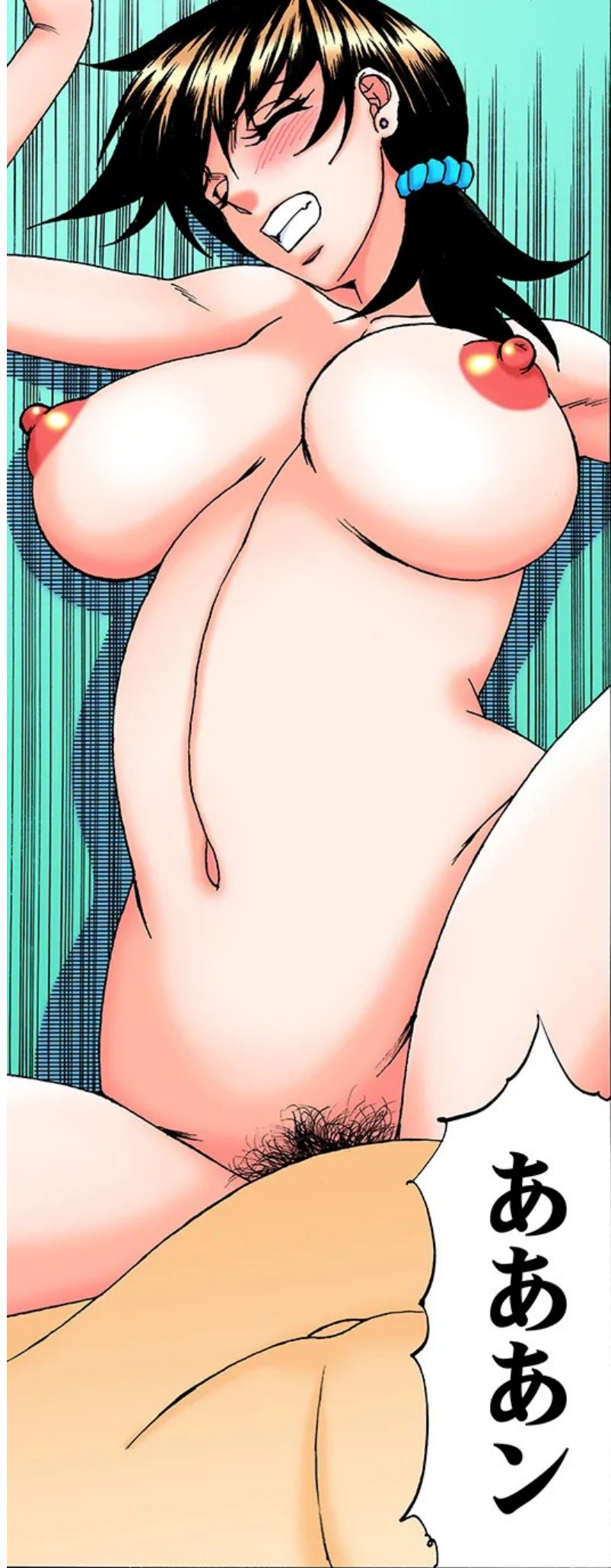


口もきけない程  
酷い事をされ  
たんですか？

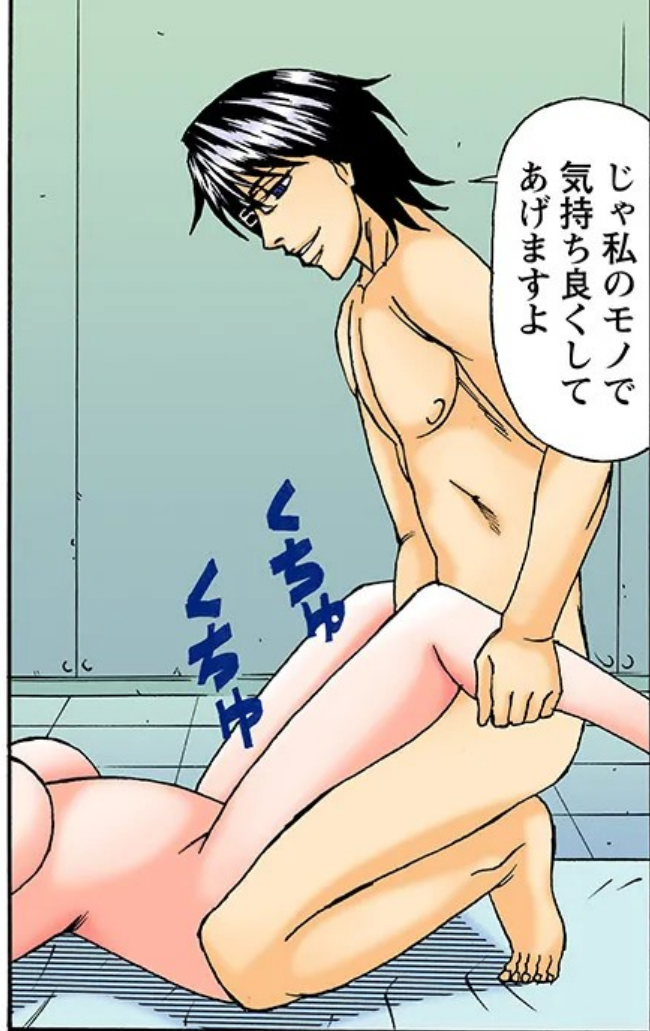


美しい……

性を開放した  
女性は本当に美しい

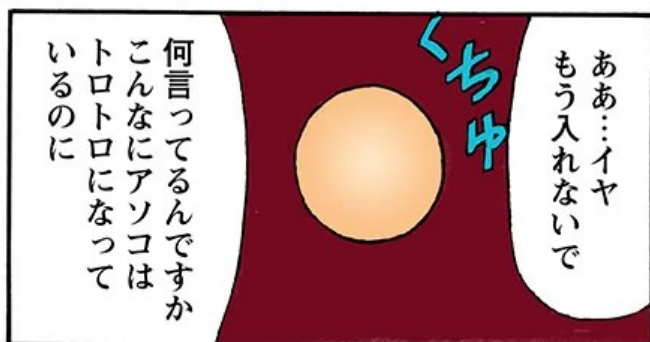


あああ



じゃ私のモノで  
気持ち良くして  
あげますよ

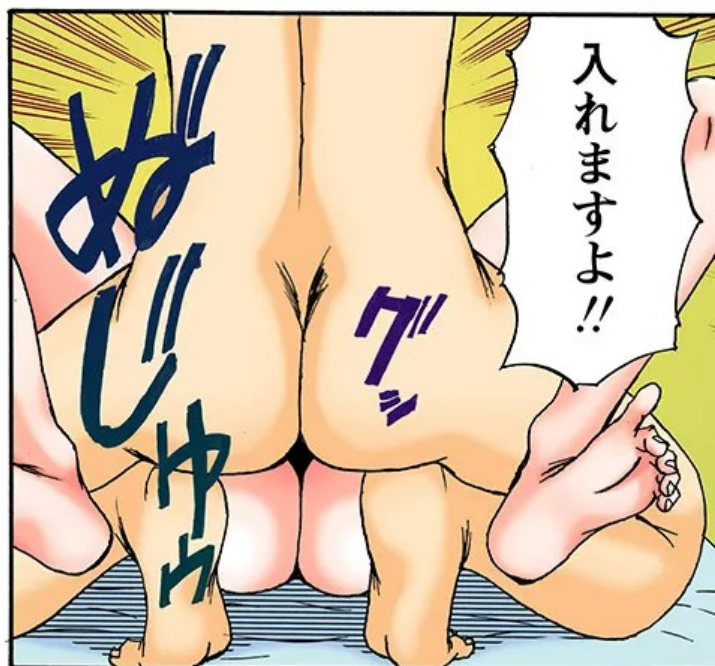
くちや  
くちや



ああ...イヤ  
もう入れないで

くちや

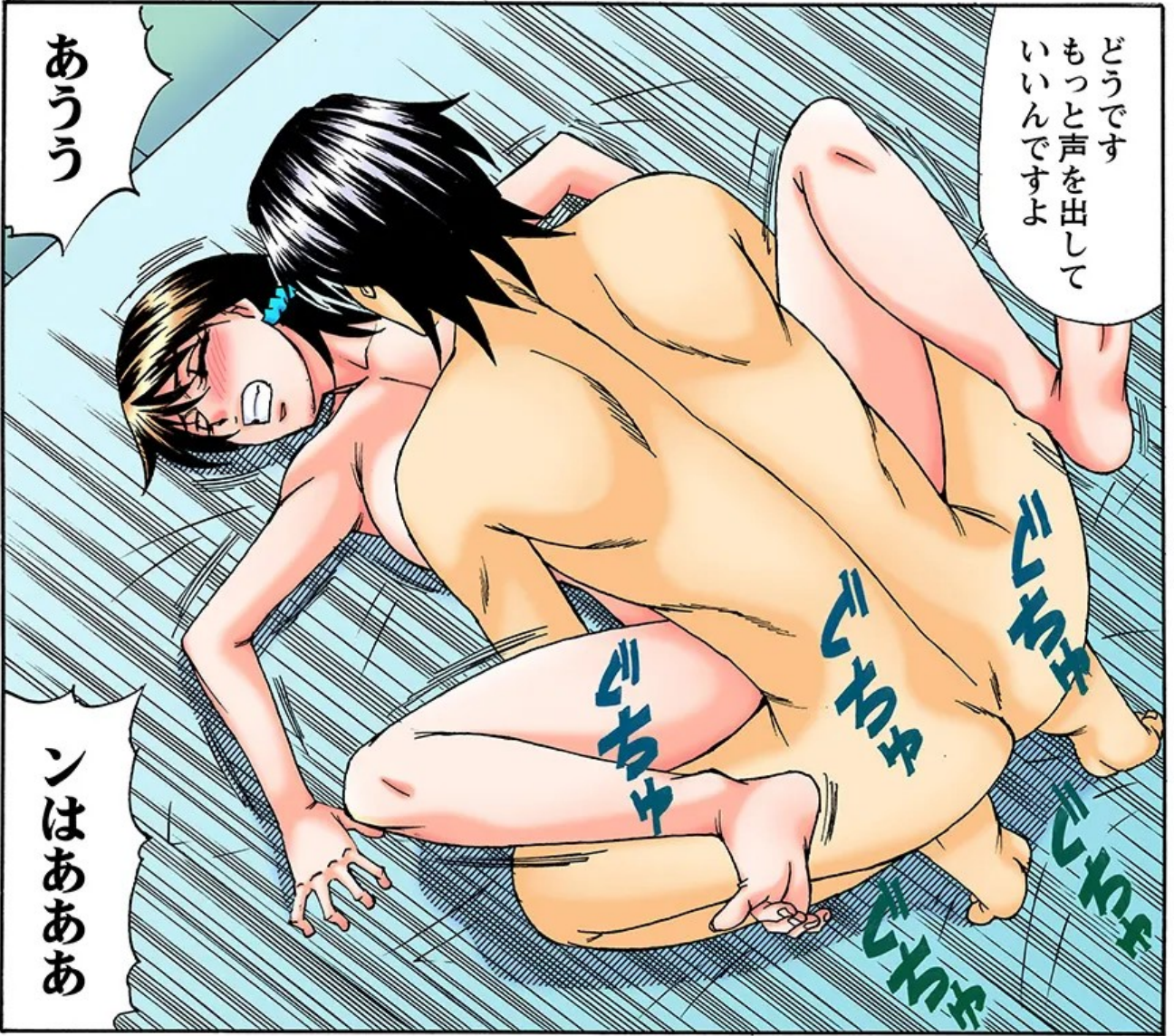
何言ってるんですか  
こんなにアソコは  
トロトロになって  
いるのに



入れますよ!!

ぐ  
じ  
や  
ん

グ



どうです  
もっと声を出して  
いいんですよ

あうう

んはあああ



ああ…ダメ  
奥に…奥に  
あたるウ

そんな奥まで  
入ってこないで

こんな深い所まで  
今まで誰も入って  
きた事ない…から  
私…私イ…





うう...



「私イキそう」

ですか？



イ...イクイク

ヒッ

くううう...  
うう

ヒッ

イ...イミちちう



いいですよ  
おもいつきり  
イッて下さい

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

イク時は  
大きな声で「イク」と  
言っして下さい





祖父は調教師として  
の心構えを  
教えてくれた



はあ

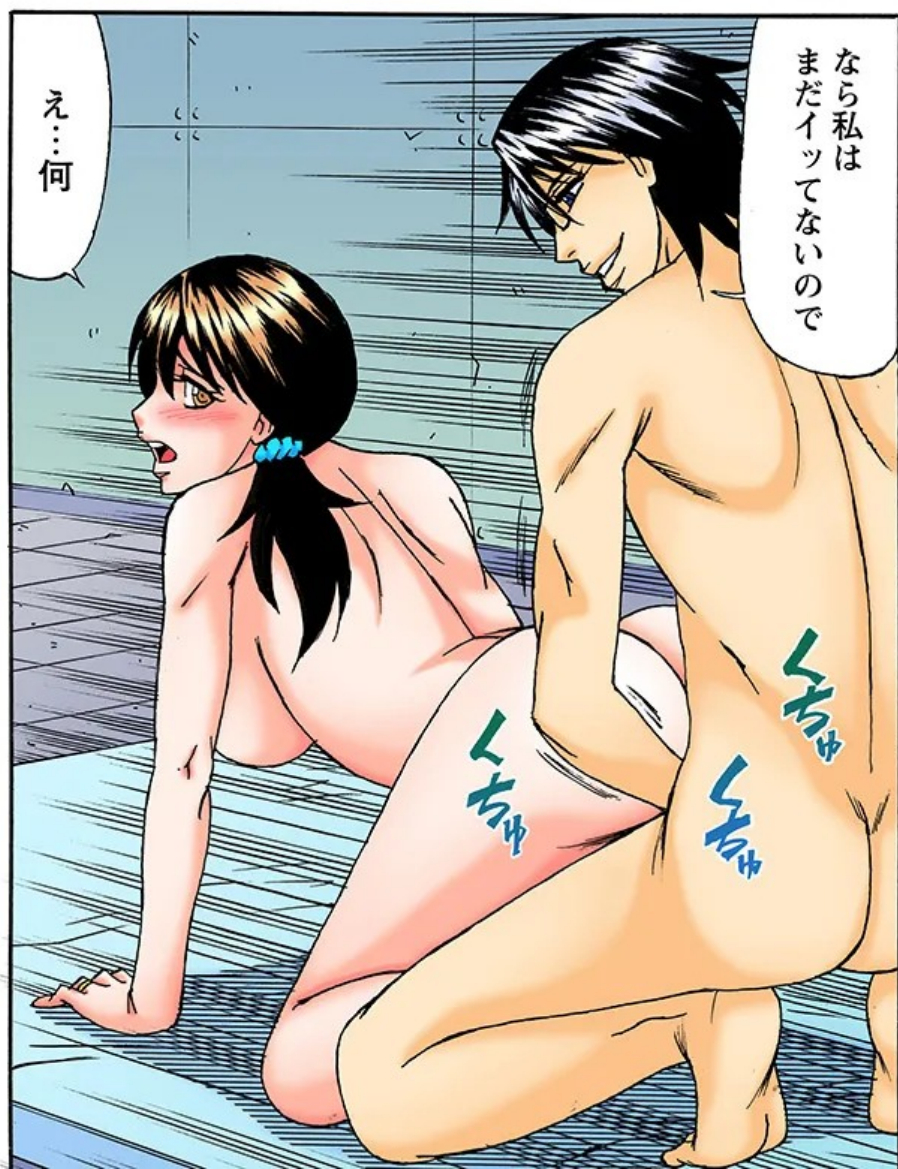
はあ



いいかい勘違いを  
してはいけない  
調教師は女の  
下僕なのだよ

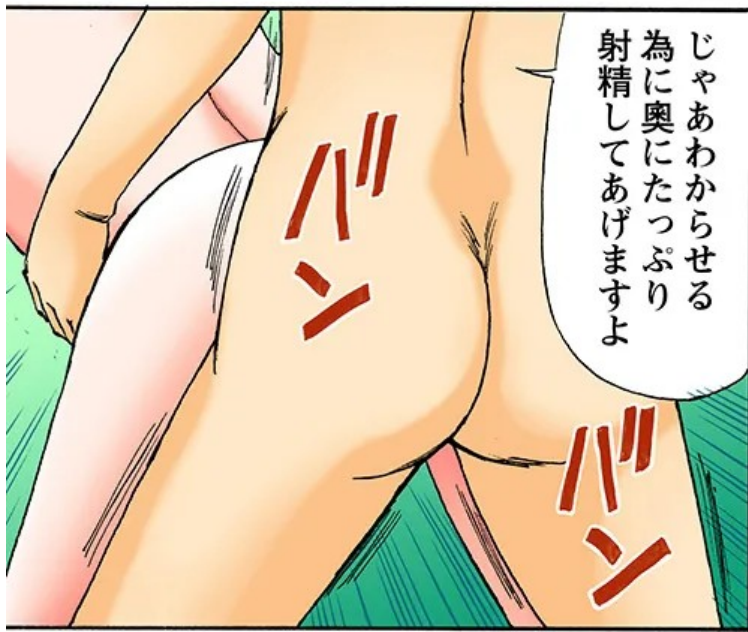
女をお姫様の  
ように扱い  
男として最大の







クううう…  
だ…誰があんたの  
奴隷に…



じゃあわからせる  
為に奥にたつぶり  
射精してあげますよ



イ…イヤ  
中はイヤ

中には  
出さないで



ぬちゅ  
ちゅ

んああああん



バックから突かれると  
奴隷になった実感が  
するでしょう



く……  
もう…出る

待って…イヤ  
外に…外にイ



出るっ!!

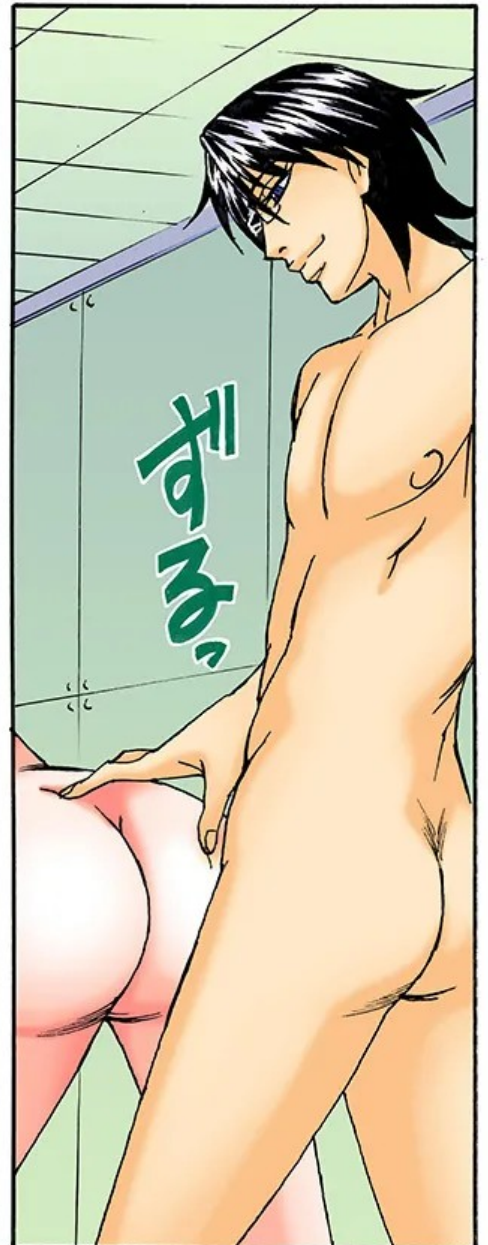
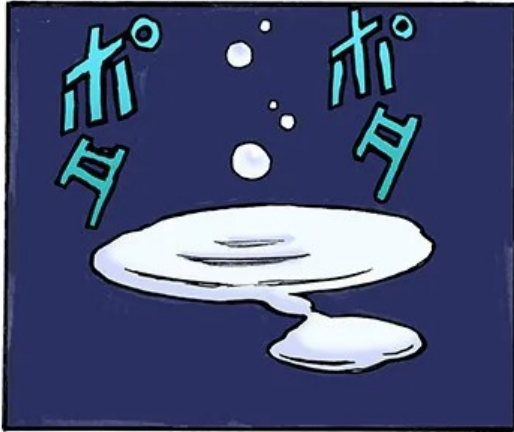
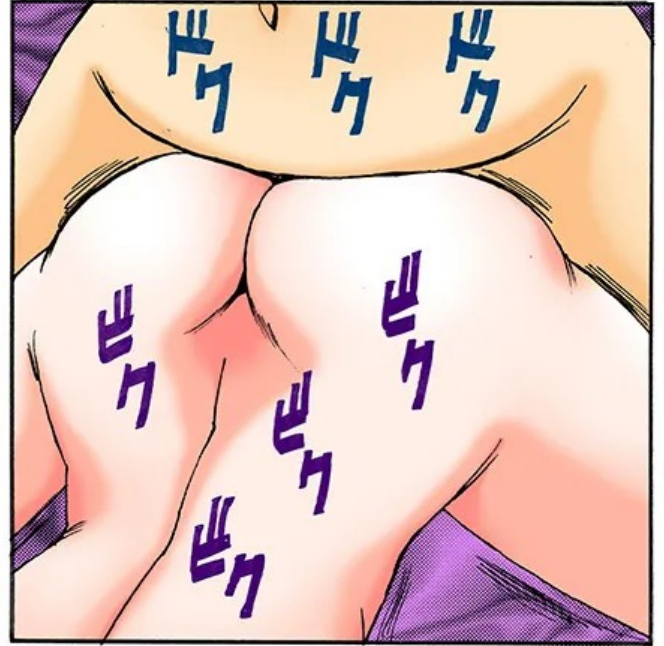
あづううううう

ああ…私の中で  
男のモノがビクビク  
脈打ってる



イツ…イツクウ~~~~!!

中に出されてる  
精液をすぐ  
注がれてるウ~~~~



こんなに何度も  
イク体質ではなかった

男達にこんなに  
淫らな体に  
されてしまった

あの男達には嫌悪感まで  
覚えるのに体は敏感に  
反応してしまう

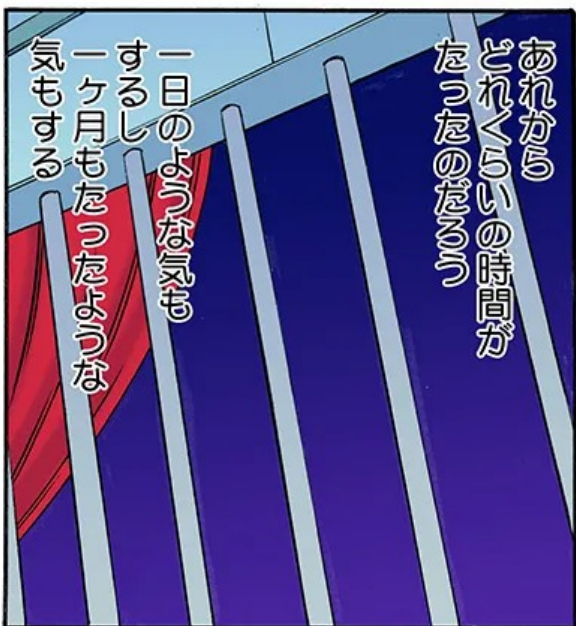
自分の体が恨めしい…



ああ泣きたい  
大声で泣きたい  
でも…もし泣いて  
しまつたら  
心も折れてしまつ  
あの卑劣な男達に  
負けてしまつ



だから絶対に  
涙は流さない

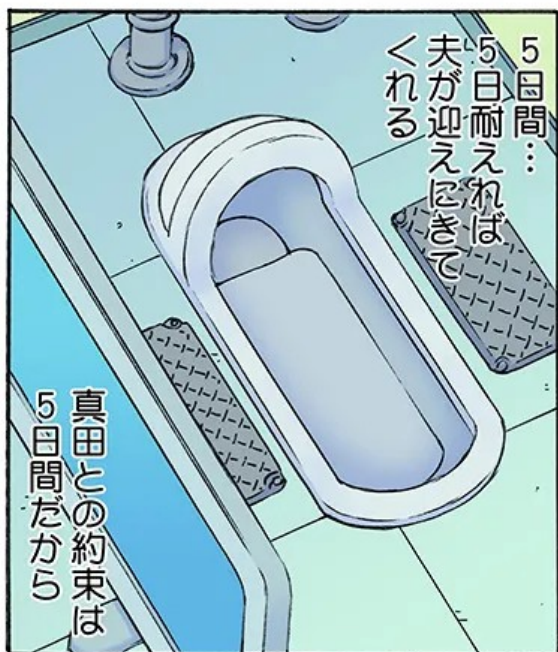


あれから  
どれくらい時間が  
たったのだろうか  
一日のようないきせ  
するし  
一ヶ月もたったのようない  
気もする



あれから男達は  
毎日のように  
私をレイプし続けている

数えきれないほど  
イカされ何度も快感で  
失神させられた



5日間：  
5日耐えれば  
夫が迎えにきて  
くれる

真田との約束は  
5日間だから



食事は  
日に3度出された

あいつらに負けない  
為にも体力はつけないと



食欲なんかなかったが  
無理にでも食べた



体をいくら犯されても  
気持ちだけでも負けないように...  
夫が迎えにくる日まで

# そして…… その日 came

当初の約束の  
5日間が終了しました

5日なんて  
あっという間  
ですねエ



でもそんな約束  
関係ないですね

まああと  
半年以上はここで  
調教ですね



え!  
!?



家に帰れる  
夫に会える

ああ……やっつこ  
やっつこ帰れる

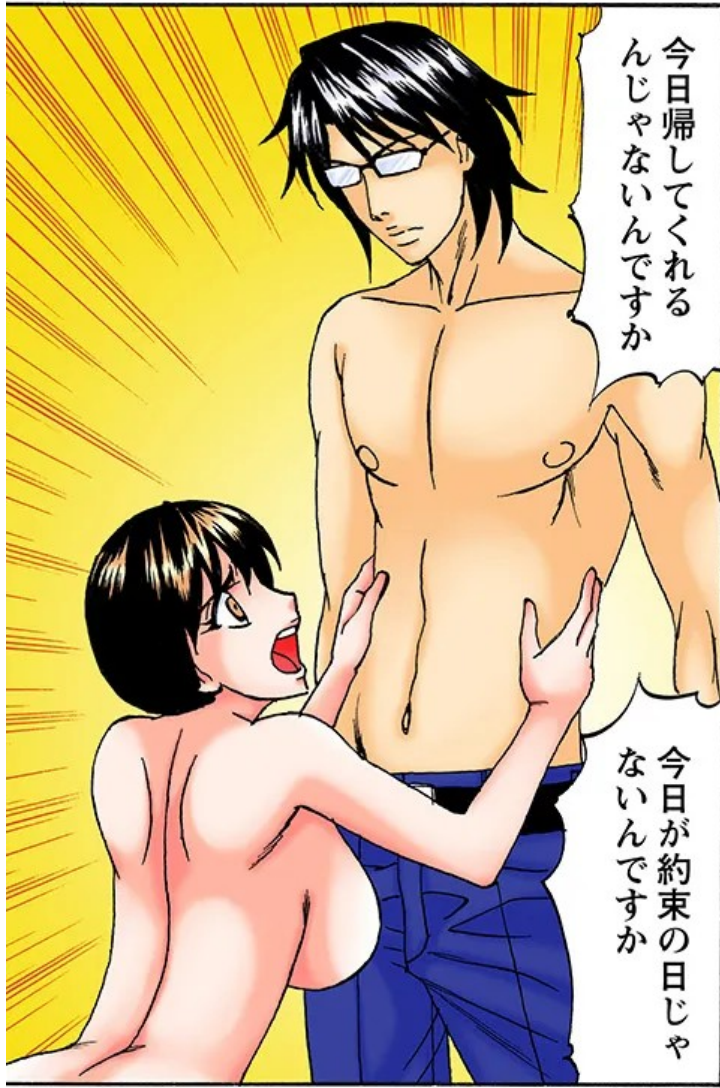




イツクウウウウ

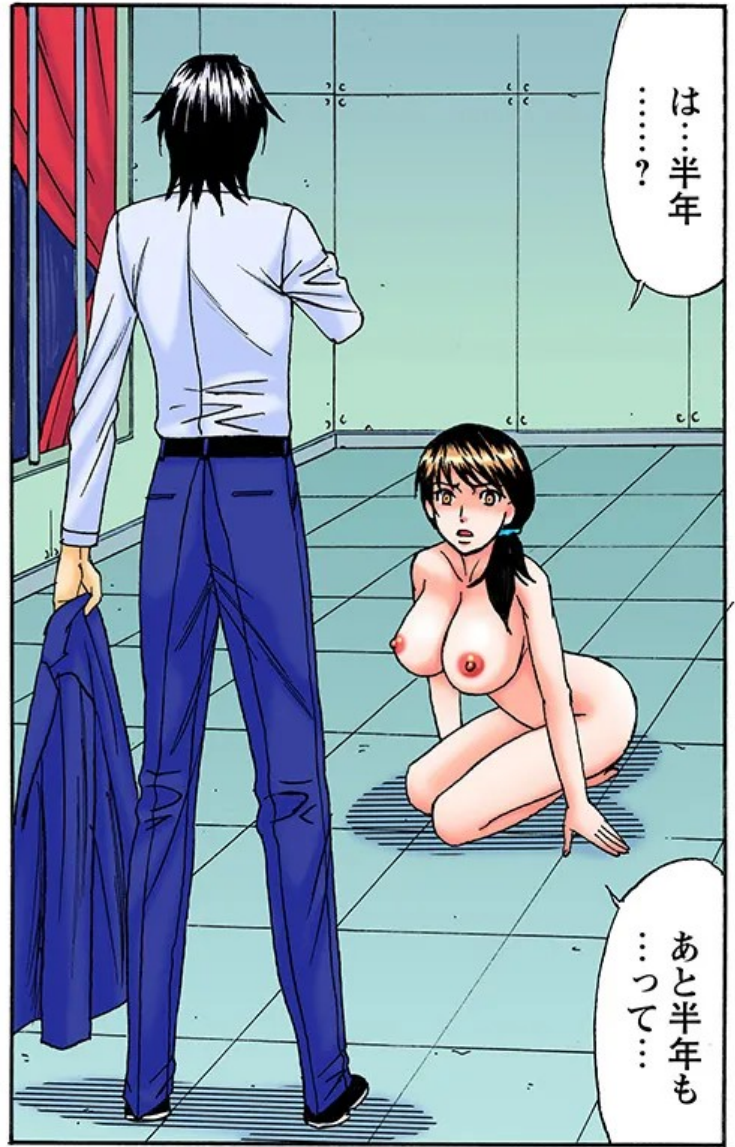
イク…イクイク

# 第3話



今日帰してくれる  
んじゃないんですか

今日が約束の日じゃ  
ないんですか



は…半年  
……?

あと半年も  
……



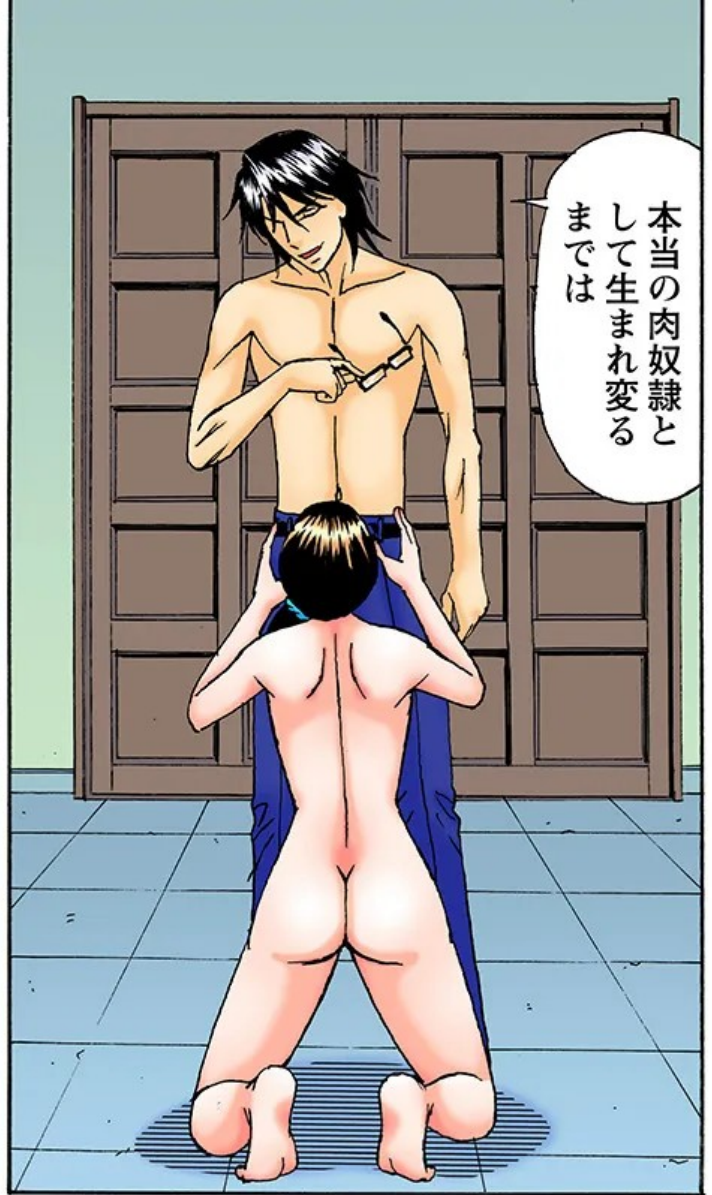
そうか本当に5日間で  
帰れると思ってたん  
ですね…  
あれはあなたの  
旦那の祐樹が  
ついた嘘ですよ

そう言っておかないと  
あなたの性格からだど  
ひどく反抗するからと



あいつら2人で  
何十発ってしたん  
ですって

ひどい目に  
あいましたねエ





甘ったれるな  
お前はここで暮らして  
オマ●コの事だけを考えて  
いればいいんだよ



ああ…  
ガクッ！  
監禁と連日のレイプ…  
そしてこの事実…  
あまりのショックで  
理性的な考えができ  
なくなっていた



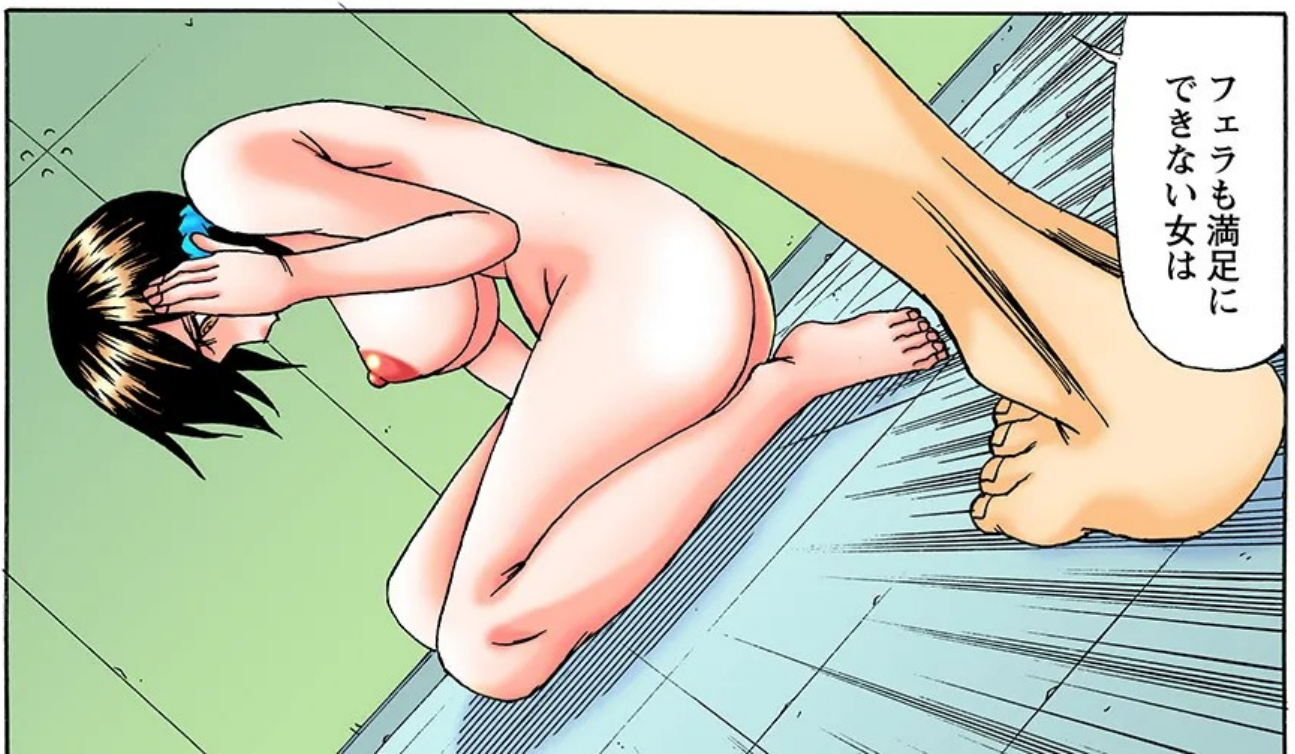
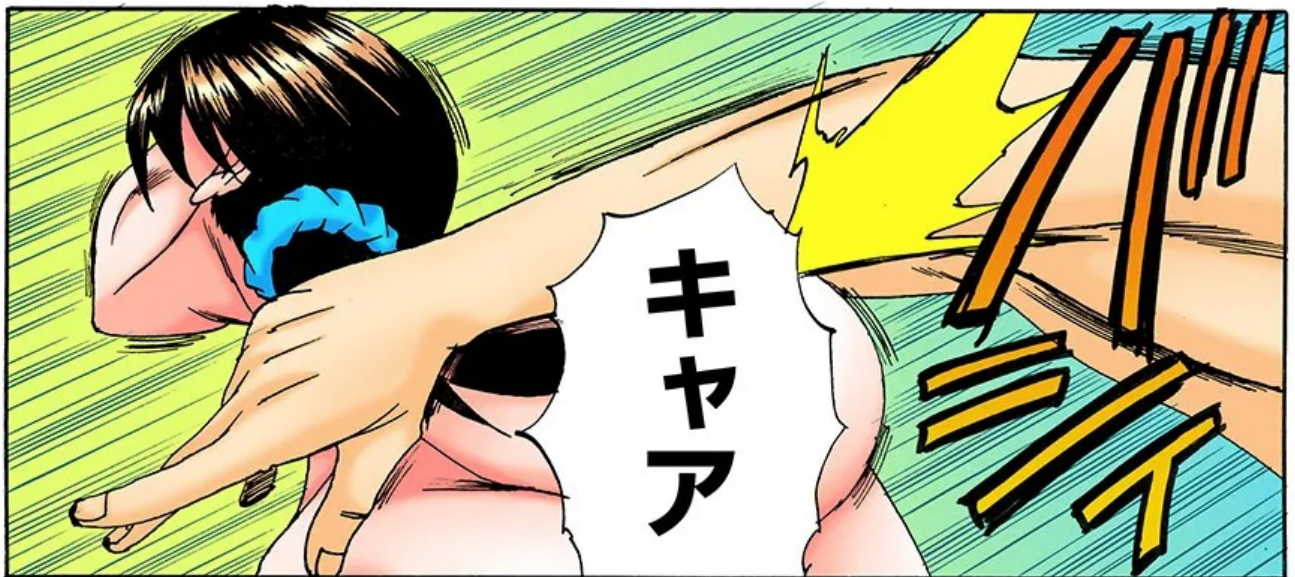
オイ  
フェラをしろ



いやああああ

そんなの  
いやああああ

そんなひどい事が  
許されるはずがないわ  
出して…ここから出してヘー





外国に売り  
とばすぞ



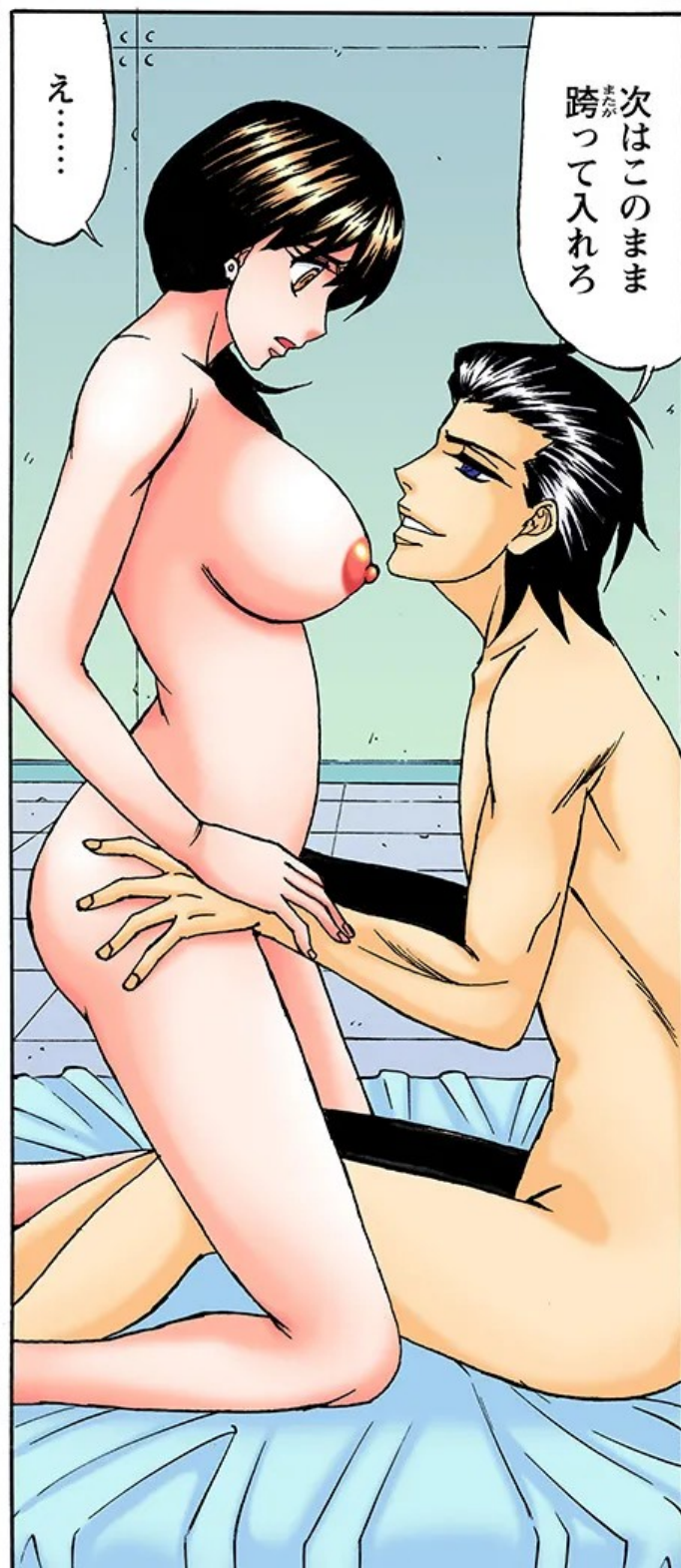
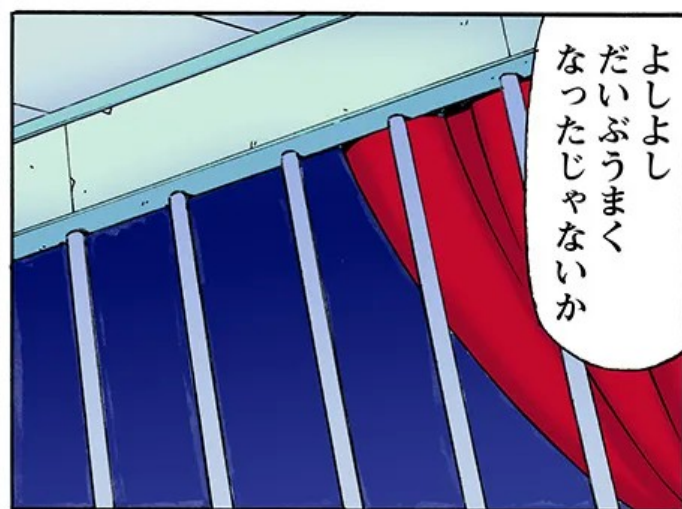
は……

はい

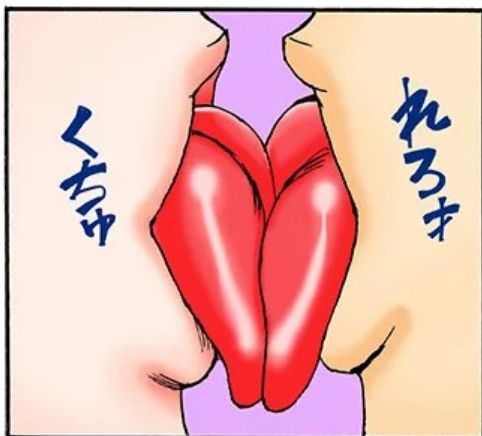
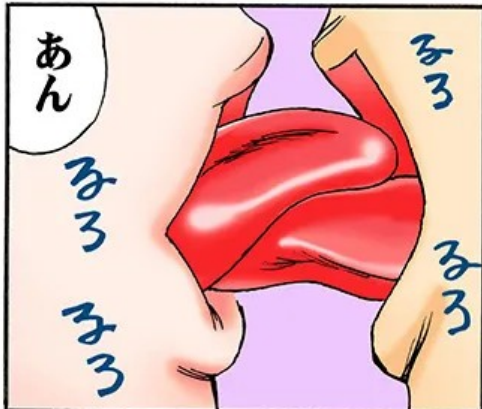
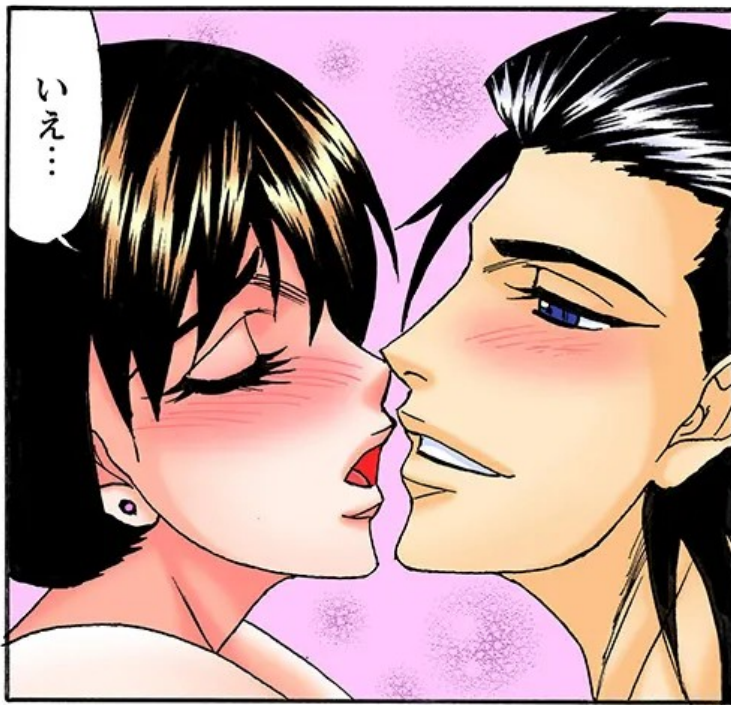


調教の成果を  
見せてみる











イ…イヤ  
イヤです

そ…  
そんな



あ…あの本当に  
あと半年も

このまま  
なんですか？



だったら俺の  
奴隷になるんだ

あづっ

ぐちゅ  
ぐちゅ  
ぐちゅ

その方が早く  
ここから解放  
されるぞ

ああん



今のお前の  
生意気な態度だと  
それ以上になるかもなア

下手をすると  
一年以上になるかなア











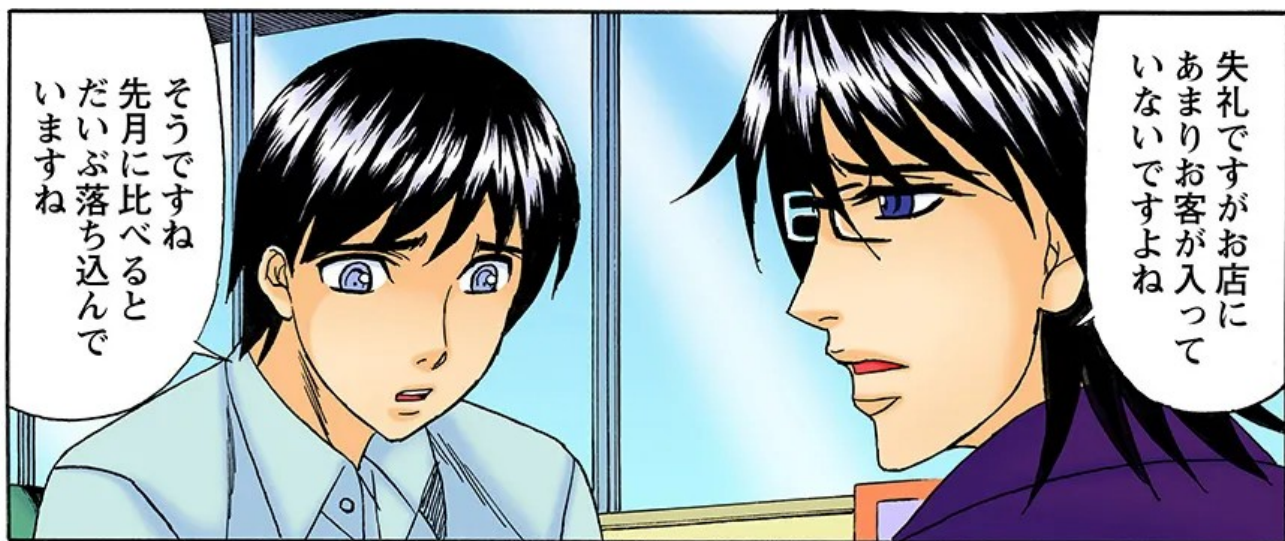


今の不況で飲食店をやっていくのは難しいと思います

ええ……  
まあ……



そして



失礼ですがお店にあまりお客が入っていないですよ

そうですね  
先月に比べると  
だいぶ落ち込んで  
いますね



私はあなたの料理の腕は一流だと思っています  
このまま小さな店で  
細細とやっている  
料理人ではないはず  
です

どうでしょう  
私の知人が駅前の  
ビルを持っています  
その一階のテナントを  
安く借りる事ができます





いえ私にできる事があれば言つて下さいでないと気がおさまりません

いいんですよ私はあなたの料理が好きなのでですから



そ…  
そうですか

でも私達夫婦の為にそこまでしていただくのは申し訳ないですよ



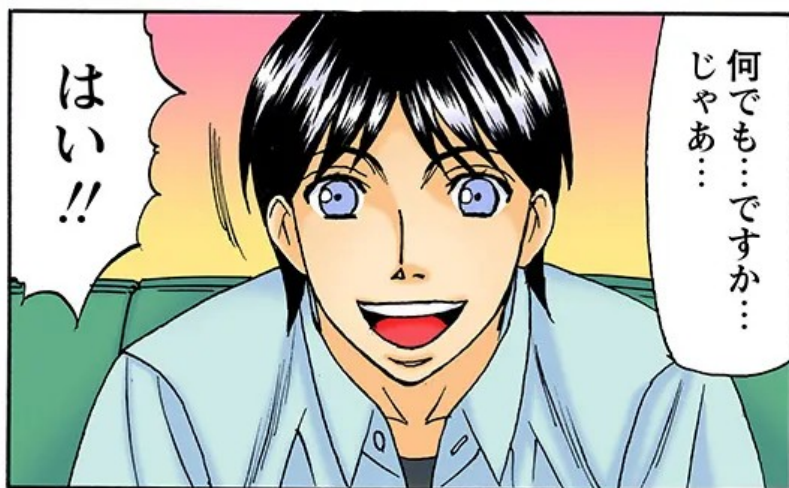
家政婦として

5日間ほど「奥様」を借していただけますか



と言われても…

真田さんの為に何でもします何でも言つて下さい



何でも…ですか…  
じゃあ…

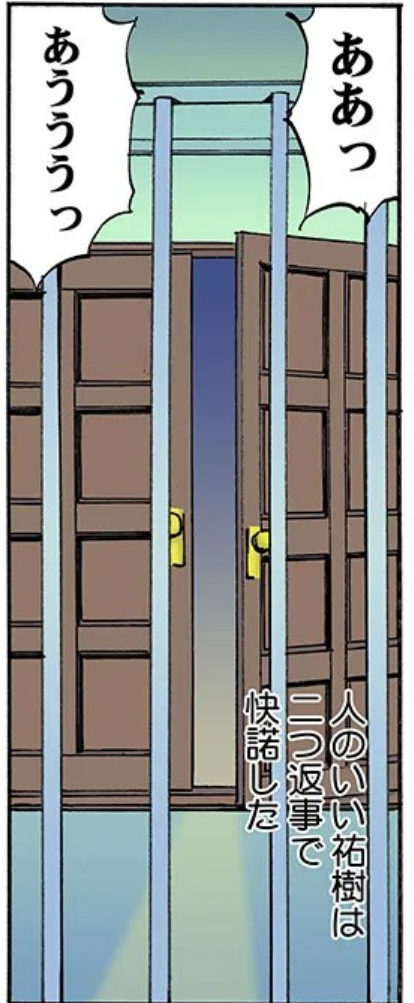
はい!!



自分の妻が  
こうなっ  
てるのに

バンバン  
バンバン  
ハッは俺を  
信じてき  
ている

はあああ



あううう

ああっ

人のいい祐樹は  
二つ返事で  
快諾した



わ……  
わからない



結衣 俺の事が  
まだ嫌いか？

店に客が来なく  
なったのも俺が裏で  
手を回したからだとも  
知らずに



好きです



嘘でも好きと  
言ってみろ

そうしたら外国に  
売るのは勘弁して  
やるぞ



もっと大声で  
言え!

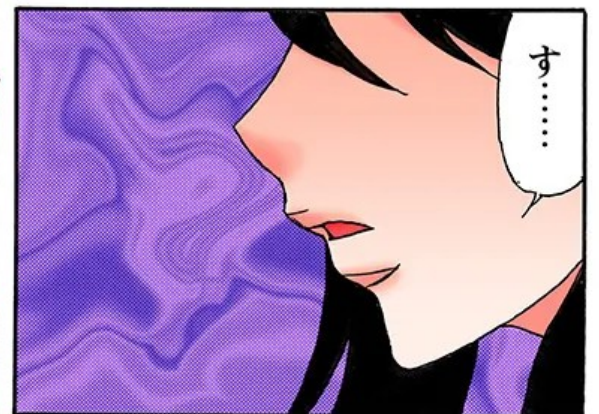
ああ…  
好きです

真田さんが  
好きですウウ



え……

長時間のレイプと  
夫への希望を失った今  
正常な判断もできなくなり  
ただ従属感だけが支配して  
いた



す……



私は真田さんの女ですウウ

真田さんに悦んでもらえる肉奴隷になりますウウ



「私は真田さんの女です真田さんに悦んでもらえる肉奴隷になります」と言ってみろ

え……

言わないとキツイお仕置きだぞ



檻の向こうをよく見てみる

え……?



私……は

大声だよ



祐樹さん!?



さつきから  
ずっとお前の事を  
見てたんだぞ

イヤ：  
イヤアアア



ああ：イヤア  
見ないで

見ないで  
エエエエ



俺もイクぞ

真田さんの精子  
全部ちょうだいイイイ

出して…  
いっぱい結衣の  
中に出して—



ごめんなさい  
あなた…  
ごめんなさいイイ

もおダメなの  
気持ちいいのが  
止まらないのオ



出る!!

きて  
きてエー



うう  
…

ああ…  
イキそオ  
イツちやいそオオ



イツクウウウウ

イク…イクイク

肉奴隷としての  
快感に目醒めて

ポタ

もあ今までの  
生活にはもどれない  
そお思うと  
涙がこぼれ落ちた

大きな快感の波が  
駆け抜けた

ポタ

ポタ

ポタ

今までにないほどの  
深いエクスタシーに  
達していた